

第66回ジュニアソフトボール大会 大会規定

1 遵守事項

本大会は、小学校児童が選手として参加しており、選手並びに保護者を始めとする関係者の健康と安全を確保するため、以下の点について理解した上で参加してください。

- (1) 雷鳴が聞こえた場合、**実行委員会の判断により、試合を中止又は中断します。**※詳細別紙参照
- (2) WBGT(暑さ指数)が大会中に 28 度以上に到達した場合は、場内放送を行い、個々の子どもの様子を確認するとともに、危険であると判断した場合は当該子どもの活動を中止し、直ちに救護所へ案内します。
- (3) WBGT(暑さ指数)が大会中に 31 度以上になった場合、試合を中断します。

2 試合方法

(1) 大会競技方法

- ① 2 グループに分けて、各チーム 2 試合ずつを行う予選リーグ戦方式とする。
- ② 各グループの 1 位チームによる決勝戦、2 位チームによる 3 位決定戦を行います。

(2) 予選リーグ戦による順位決定方法

- ① 勝利数が多いチーム（引き分けは、0、5 勝）を上位とします。
- ② 勝利数が同数の場合は、失点が少ないチームを上位とします。
- ③ 失点と同じ場合は、選手 9 人による抽選とします。

(3) 試合時間等

試合時間は 60 分とします。

7 イニングを超えて新しいイニングには入りません。

※最終イニング終了時で同点の場合は、試合時間内であればタイブレーク（ノーアウト 2 塁からイニング開始。なお、その場合の 2 塁走者は、前イニングの最終打者とする。）を採用して延長戦を行うが、試合時間を経過してなお同点の場合は、以下のとおり勝敗を決定します。

- ・リーグ戦の場合……引き分け
- ・決勝戦及び 3 位決定戦の場合……勝敗が決まるまで延長戦を行います

(4) コールドゲーム制の採用について

決勝戦及び 3 位決定戦は、5 回以降 7 点差のコールドゲーム制を採用します。

3 チーム編成等

(1) 編成

箕面市ソフトボール協会に登録したチームに在籍する小学生 20 人以内（男女混合可）で編成されたチームとします。ただし、試合の出場は小学 3 年生以上とし、小学 1・2 年生についてはベンチ入りのみ認めます。

(2) ベンチ入り

引率責任者 1 名、監督 1 名、コーチ 2 名、選手 20 名（小学 1 年～6 年）以内とします。

引率責任者と監督は成人、コーチに限って高校生以上とします。

※「監督」「コーチ」を明記した腕章を着用することとします。

1・2 年生のベンチ入りについては各チームで責任をもって指導徹底してください。

4 競技規則

2026 年オフシャルソフトボールルールに基づいて行います。

※一部ローカル・ルールを採用します。

5 競技場

(1) 投手距離 12.19m

(2) 塁間距離 16.76m（本塁 ～ 2 塁 23.70m）

6 服装・用具等

(1) 服装

①体操服、又は野球のユニフォームなどで全員統一されていることとします。

また、体操服には、チーム名、番号が入ったゼッケンを背中に付けることとします。

野球のユニフォームで、チーム名、番号がある場合は、ゼッケンはいりません。

②帽子は、赤白帽または同一の野球帽とします。

③靴は、運動靴とします。（ポイントシューズ可）

(2) 用具等

①バットは、11inch バットで検定マーク入りとします。

②ボールは、11inch ボールを使用します。

③バッター、ランナー及びランナーコーチの選手は必ずヘルメットを着用してください。

④捕手は、捕手用ヘルメット、スロートガード付きマスク、プロテクター及びレガースを着用してください。

（注 1）捕手用ヘルメットは JSA 検定マークが入っているものに限る。

（注 2）捕手用マスクは SG マークが入っているものに限る。

※SG マークとは、一般財団法人製品安全協会の定める基準に適合したものを指す。

7 試合のルール等

(1) 再出場（リエントリー）制を採用します。

スターティングプレイヤー（先発選手）は、一旦試合から退いても、一度に限り「再出場」できます。

(2) 指名選手（DP/FP）制を採用します。

(3) ランナーコーチは、大人も認めるが、選手はヘルメットを着用してください。

(4) 選手を交代させようとするチームの監督は、球審に通告しなければなりません。

- (5) 試合中抗議できるのは監督のみです。
- (6) 監督のタイム要求による打合せは、攻撃側は1 イニングで1 度限り、守備側は1 回から7 回（5 回）までの間で3 度までとします。
- (7) 試合時のベンチは、組合せ表の左側が1 塁側です。
- (8) 打順表は、大会本部で配布した打順表を使用し、第1 試合出場チームはすみやかに、そのほかは試合開始予定時刻の30 分前までに本部に提出してください。
- (9) 次打者は、次打者席内で待機してください。なお、安全面を考慮し、打席にいる打者が右打者の場合は、三塁側、左打者の場合は、一塁側の次打者席で待機してください。

8 ルールの留意点

(1) アピールプレイ

審判員が監督、コーチ、プレイヤーに要求されるまで判定をすることができないプレイで正しい投球、不正投球にかかわらず次の投球動作に入る前になさなければなりません。

- ①走者が塁を空過したとき
- ②飛球に対して走者の離塁が早すぎたとき
- ③打順誤りがあったとき
- ④打者走者が一塁通過後に二塁へ向かおうとしたとき
- ⑤無通告交代したとき
- ⑥代替えプレイヤー違反があったとき
- ⑦再出場違反があったとき
- ⑧DP違反があったとき
- ⑨タイブレークの走者にルール違反があったとき。

(2) 打者が打者走者になる場合

- ①ヒット、四球、死球、打撃妨害のとき
- ②3 ストライクルール（振り逃げ）
※捕手が第3 ストライクを捕球できなかった場合でも、無死・一死で走者が一塁にいるときは、振り逃げとならず打者はアウトとなりますが、試合はインプレイの状態(全てのプレイが成立)となります。

(3) 走者の安全進塁権

- ①投球が競技場外へ出た場合、投球時に占めていた塁から1 個の安全進塁権
- ②送球が競技場外へ出た場合、送球が野手の手を離れたとき占めていた塁から2 個の安全進塁権

(4) 走者（打者）がアウトになる場合

- ①打者が1 塁に触れる前に身体又は1 塁に触塁したとき（同時はセーフ）
- ②投球が投手の手から離れる前に走者が塁から離れたとき
- ③スリーフットレーンの外側を走って守備を妨害したと審判員が判断したとき

(5) インフィールド・フライ

無死または1死で、走者1・2塁もしくは満塁で、内野に打ち上げられた飛球を野手が容易に守備できる飛球のこと。打者はアウトを宣告されます。

(6) ダブルベース (1 塁の白色ベース・オレンジベース)

①打者が1塁に走り、1塁でプレイが行われる場合は、オレンジベースに触れなければなりません。(白色ベースの時は空過となる)

②オレンジベースを走り越した後は、白色ベースを使用します。

※1 塁でプレイが行われない時は白色ベースかオレンジベースのどちらでもよい(2 塁打など)

③守備側のプレイヤーは、常に白色ベースを使用します。

(7) 投球に関すること

投手は投手板以外の地面を蹴って投球してはいけません。

(8) 20 秒ルールについて

試合のスピードアップを目的に規定されたルールで、投手は球を受けるか、球審がプレイの指示をしたのち、20 秒以内に次の投球をしなければなりません。20 秒を超えると、1 回目は審判から投手に、2 回目は監督及び投手に注意を与えます。それでも改善されない場合は、「ボール」が宣告されます。

(9) 故意四球

守備側チームが、投球せずに故意に打者を一塁に歩かせるため、投手、捕手、あるいは監督が球審にその旨を通告することをいう。

(10) テンポラリーランナー

投手・捕手が塁上の走者となっていて二死となったとき、あるいは二死後、投手・捕手が出塁し、走者となったとき、投手・捕手の代わりにテンポラリーランナーを使用することができます。

※テンポラリーランナーは塁上の走者以外の選手で、打順が最後に回ってくる者としてします。

ただし、テンポラリーランナーに代走は原則適用できません。

9 注意点

(1) 選手は、試合開始予定時刻の 30 分前には集合してください。

(2) 育成者は、子どもの育成者としての自覚を持ち、子ども達の模範となること。目に余る言動があった場合は、その試合の球審と塁審の協議により警告処分や退場処分を行うことがあります。

(3) ベンチ内でのメガホンの使用は固く禁止します。

(4) 連続しての守備時間が長時間 (10 分を目処とする) になった場合、給水を当該審判員により指示することがあります。

(5) 選手の体調が優れないと審判員が判断した場合は、試合を止めて所属するチームの監督に選手の交代を促します。

(6) 2 イニング終了ごとに、審判員から両チームの監督やコーチへ選手の体調確認を行い、体調が優れない選手がいる場合は所属するチームの監督に選手の交代を促します。

10 その他

大会運営補助について

- ①参加試合において、割り当てられたチームは、補助員を2人選出してください。補助員は試合開始 15 分前に管理棟に集合し必要備品を受け取り、試合開始 10 分前までに担当コートへ行き待機してください。
- ②補助内容は、試合時間の計測、ボールふき、審判へのボール渡し及び得点ボードへの記載、守備時間 10 分の計測とします。